

「ふれあい定期」の 運賃改定について

議員 「ふれあい定期」制度は福祉施策の一環として実施されてきた。また、市営バス路線の多くが、交通不便地域を運行していることから、生活に直結した交通手段を確保するためには必要な財政措置を行い、「ふれあい定期」の値上げはやめるべきではないか。

交通局長 「ふれあい定期」は、市営バス独自の福祉施策として、平成16年7月に導入したものである。交通局は、地方公営企業として法律に基づき、公共の福祉の増進と経済性を発揮するよう運営しなければならず、独立採算性も求められている。利用者数の減少が続く厳しい経営環境のなか、これまで、正規職員の削減や給与の引き下げなどの経営努力を重ねてきた。

しかし、健全な経営と市営バス路線の維持に努めるため、引き続き経営基盤の確立に取り組んでいく必要がある。そのため、昨年4月に実施した運賃体系の見直しなど、利用者に負担をお願する取り組みも、やむを得ず行わなければならないと考えている。

「ふれあい定期」制度の見直しに当たっては、これまでも自治会に対する説明やポスター等でお知らせしており、今後も引き続き周知に努めたい。

新球技場整備の必要性 について

議員 新球技場は、この町にとって大変重要な施設であり、小倉駅新幹線口がさまざまなイベントの実施により、大いににぎわうことを期待する。新球技場の整備について、2回目の公共事業評価を終えたこの段階で、その必要性を改めて尋ねる。

市長 新球技場の建設については、市体育協会からの要望や、スポーツ振興審議会からの提言を受けて、平成21年度から本格的に検討に着手した。

検討に当たっては、2度立ち止まって、市民・議会の声をよく聞いて進めるといつランスで臨み、2度の公共事業評価に諮るなど丁寧に進めてきた。新球技場は、Jリーグの試合開催だけでなく、「コンサート、グラウンドゴルフ、幼児の芝生体験など、さまざまな形で市民利用を図ることで、新たなにぎわいが生まれてくる」と考えている。

また、高規格の施設が存在することは、本市のシンボルとして市民の誇りになり、気持ちを一にする効果がある。さらに、青少年の健全育成や新たな雇用創出につながる。災害時には避難場所、救済物資の集積・集配拠点となることなど、多くの効果が期待できる。新球技場は夢や感動を共有する場として、まちのにぎわいづくりの大きなきっかけとなるものであり、このまちの将来に必要な施設であると考えている。

新球技場の建設に対する 市民意見の聴取について

議員 新球技場建設には市民の理解と協力を得る努力が求められる。そのため市民説明会は回数や参加者の目標を定めて開くことが必要である。また、全市民を対象にした賛否のアンケートを実施すべきではないか。

市長 新球技場の計画を進める基本姿勢として、市民や議会への意見を聞くことが重要という考えに基づき、丁寧に説明や意見交換を続けてきた。市民説明会は、平成22年11月に基本方針を発表後、本年5月現在で104回・3460人に対し行っている。

説明会では、施設内容だけでなく、事業の手法や財政負担、施設の活用方法なども含め、丁寧な説明が重要と考え、現在、30人程度のグループ単位で実施している。説明会終了後のアンケートでは、説明後の理解度は9割を超え、事業内容をよく理解していただいていると考えている。

このため、説明会は現在の形式で継続していく考えであり、実施の回数や参加者の数についても、目標値を定めずに、1人でも多くの方々に説明していきたく考えている。

全市民を対象にした賛否を問うアンケートについては、市民に事業の意義や効果を理解してもらうことが大切と考えており、現在の形式の説明会を継続していきたい。

真の待機児童ゼロを目指して

議員 潜在的な待機児童の実態に持つているのか。子育て日本一を目指す本市は、住民の保育ニーズを詳細に把握し、真の待機児童ゼロに向けて、熱意と覚悟を持って取り組むべきと考えるが、見解を尋ねる。

市長 本市では、この3力年間で、4力所の民間保育所の新設と既存保育所の増設策を行い、市全体で5200人の定員増を行った。また、家庭保育員も新たに7力所開設した。この結果、平成25年4月現在の待機児童は0人となっている。しかし、年度中途においては入所が困難となるケースも生じ、その数も増加傾向にある。

国が発表した待機児童解消加速化プランでは、平成25年度からの5年間で、合計40万人の入所定員増を図るとしており、具体的な事業項目として、認可を目指す認可外保育施設への支援など、希望する自治体の手上げ方式により実施することとされている。

本市では、子ども・子育て支援新制度が施行される平成27年度までに、次期子どもプランを策定する必要があり、そのための市民ニーズ調査をできるだけ早い時期に実施する予定である。潜在的保育ニーズの状況もしっかり把握

し、待機児童ゼロに向けた取り組みを計画の中に盛り込みたい。

認可外保育施設の児童 の健康診断について

議員 認可外保育施設には、健康診断を年2回受診していない子どもがいるのではないかと、認可外保育施設に十分な診断費用を補助すべきと考えるが、見解を尋ねる。

市長 認可外保育施設における児童の健康診断は、国の基準によつて、年2回行つよう定められている。本市では、各施設に半年以上在籍している等の児童を対象に実施するよう指導している。

本市では健康診断を実施した認可外保育施設に対し、その経費を補助しているが、今年度、診断費用に対する補助対象と補助額の見直しを行った。具体的には、補助対象に嘱託医契約に要する経費を新たに追加し、①健康診断や嘱託医契約に要する実費②受診者1人につき、年額30000円③施設当たり年額10万円の3つを比較して、少ない額を補助することとした。

この改正で、健康診断の費用はまかなえるのではないかと考える。

また、受診回数については、児童の入所期間に差があるため、一概には言えないが、本市としては、施設への立入調査の際に、児童名簿と受診票を照らし合わせて確認し、実施していない場合は受診を指導している。

地域コミュニティの受け 商店街の役割について

議員 地域コミュニティの受け皿として、商店街にどのような役割を期待しているのか。また、地域コミュニティの活性化につながるため、これまでとは別の観点から支援や助言などが必要と考えるが、見解を尋ねる。

市長 商店街は、日常の買い物の場であるとともに、祭りや

イベントなど地域の文化を守り、人々が交流する地域コミュニティの担い手としても重要な存在である。商店街の活性化を支援していくことは、地域コミュニティの活性化につながることを考えている。

そこで本市では、商店街が主体となつて行う課題解決の取り組みに対し、積極的に支援している。事例として、高齢者向けコミュニティ広場の整備や宅配商店マップの作成、防犯カメラの設置などへの支援を行ってきた。また、商店街が買い物が困難な地域への出張販売などの取り組みを行った結果、高齢者との交流が深まり、商店街の売り上げ増加につながっていると聞いている。

地域における商店街の役割は、今後ますます重要になってくると考えており、時代のニーズにこたえながら、商店街と一緒に地域コミュニティの活性化に努めたい。

PRCプログラムクラブ の創設について

議員 多くの企業では、パソコンを駆使し、ものづくりが行われている。公立中学校に、ものづくりに必要なアプリ開発を行うクラブ「WE部」を創設してはどうか。また、その活動を住民力を活用した放課後空き教室活用事業の一環として行つてはどうか。

教育長 現在、市内の中学校5校にパソコン部がある。主にアプリケーションソフトを活用した新聞等の文書作成や、パソコンタイピング等のライセンス取得などを行っており、プログラミングを行うといったレベルには至っていない。

提案のあった「WE部」の創設や、現在のパソコン部の活動を高度なプログラミングスキルの獲得などへ発展させるには、指導者のスキルアップを図る必要があるなどの課題も多いため、まずはパソコン部を持つ5校の関係者と意見交換することから始めたい。

「WE部」の活動を地域住民・企業が主体となつて放課後の空き教室を活用して行うことは、地域の子どもの育成につながるものとするすばらしい取り組みであり、そのような取り組みを行う団体ができると期待している。そのため、実施主体がどこになるのか、保護者や地域のニーズがあるのかなどさまざまな課題を整理した上で、他都市の事例も参考にしながら検討を進めていきたい。

「ついたん」の普及について

議員 本市の環境マスコット「ついたん」ファミリーを誕生させたのはどうか。家族で力を合わせて環境問題に取り組んでいく姿を演出すれば大きな話題となると考えるが、見解を尋ねる。

市長 「ついたん」は、市民の公募で誕生した白くまのキャラクターである。「地球温暖化が進み、氷が解け始めている」との北極から、低炭素社会づくりに取り組む北九州市にやってきた男の子」という設定で活動している。今後の「ついたん」の展開について職員からは、環境を守る正義の味方、白くま「ついたん」に対し、悪役「ブラックついたん」の登場や、「ついたん体操」、「ついたん絵描き歌」の制作などのアイデアが出ている。

先日、若松で保護されたアザラシの「ワカちゃん」とカップルで広くアピールするようなくとも考えてみたい。今や「ついたん」は市民に愛されるキャラクターとして成長している。ストーリー展開や話題づくりについて、市民からアイデアを募りたいと考えている。その際には、提案のあった「ついたんファミリー」の誕生についても検討したい。



©Teitan, City of Kitakyushu
北九州市環境マスコットキャラクター「ついたん」